第16回「ゆずり合い　助け合い　学び合う会」参加者アンケート

1　参加回数

初めて	24
２回目	5
３～5回目	7
6回以上	1

2　どのように学習会を知ったか？

フェィスブック	3
知人・友人の紹介	17
わびあいの里で（勧められて）	4
里の通信	7
2017.2.26「教えられなかった戦争沖縄編」を観て、来てみたいと思った。	1
電話したら謝花さんに勧められた	3

3　今回の感想

★改めて、伊江島で考えるべき点は多くあると実感した。ただ、注意を強めるのみならず（これも大切！）、参加者が様々なことを問い直す会が必要です。

★歴史を見直し、そこから学ぶことは大切なことだと思います。阿波根さんのことをたくさんの人に知っていただきたいです。

★鳥山さんの講演から→阿波根さんの行動が沖縄の戦後史に大きな影響を間違いなく与えていると知り、改めて素晴らしい人だと思いました。膨大な資料をひとつひとつほりおこされ、資料としてまとめられる調査会の皆さんの活動、感動します。
シンポジウムから→記録することの大切さ、そして伝えることを学んだ。面白かった。
参加で来てよかったです。

★講演→パネラー討論→資格資料（「沖縄と核」縮小版上映）の構成はよかったと思う。
島内巡りも含めて、充実している学習会。提案としては、参加者同士が知り合う機会を作ってもいいかもしれない。たとえば、テーマ別の分科会を開いて、小グループに分けて、話し合うなど。

★阿波根さんは戦争を体験し、戦後は土地を奪われ、その生き方、考え方を問い直さざるをえない事になってしまった。しかし、その阿波根さんのその生き様やその思いに触れた全国たくさんの人々がそれぞれの生き方を見つめ直し、深め続けてきた。そして、そんな生き方を変えた人々が、毎年学習会に集い、交流し、触れ合う中で、それぞれが一層、生き方を問い続け、生き方を模索し続けてきたんだろうなと思います。それら地元の人々は、またその生き方を問い直す事につながるに違いないと、そう確信する学習会でした。たくさんの人から学んだ生き方を日常生活で実践していく事で、たくさんの方々から頂いた思いや生き方に返していきたいと考えています。

★伊江島のことを友人達に是非知らせたいと思った。自分自身も、もっと理解を深めたいと切実に感じました。

★今後のミニ展示テーマ案として「阿波根氏とキリスト教（又は宗教）」「阿波根氏と伊江島の女性たち」「伊江島の祭り」「伊江島の子どもたち」ミニ写真展いいですね。今後も学習会にあわせて、1テーマずつ整えていったらどうでしょうか。

★若手の人（～40代くらいまで）に役割を担ってもらう工夫がとてもよかったと思います。さらに現在の参加者が「一人が一人を」さそって来る呼びかけの強化を。

★今回は講演（調査会）→シンポジウム（一般の声）→と流れが全体としてひとつとなっていて、とてもよかったです。これまでと今、これからがつながってゆく思いが上がってゆく感じでよかったです。わかりやすい！
シンポジウムの時間が切れて、話せなかったアイデアとして「‘声’の→ツイッター、資料は文字なので、ぜひ声がきけること！」「島（の人々）への愛がおじいの根底にあるので、写真展の準

備で実際「これ私！」という場面に出会いました。島の方々が小さい頃の自分、家族に出会える機会をつくってください。そのことが、その方々を通して、その家族の中で話をする機会となり、昔が今の生き方に繋がってゆき、いろいろな和、輪ができてゆくと思います。正に「あの時代、あの日々」も正に「人間が生きている」島だったという証拠日誌が資料のひとつひとつだと思いました。歴史には名前が残らないけど、かけがえのないひとりひとり、生命。あんなにつらい苦しい時も・・・。
小学生の踊りと、踊りの子を通しての地域、家族、みんなのつながりが生き生きと伝わり、みんなが＊＊＊＊　これこそ平和です！
★アメリカ大統領が「フェイク」を流し、日本の財務省が記録を改竄する時代、民衆の側が記録を作成し、保存し、活用することの重要性を痛感しました。立教大学の教員４名で来ました。4月から「届かない声を聴く」という授業で、今回の「学び合う会」の感動を伝えようと思っています。
★会場からの様々な意見がでました。世界に発信する事は大事です。と同時に若者が云われていた、地域の人に受け入れられる工夫が必要だし、できるのではないでしょうか。（例）運動会、子どもの遊び、農耕、配給、川あそびなど、地域の様子をテーマに阿波根さんの人となりにつなげ、平和の思想に行きつけば良いのではないかと思います。そして、小さなチラシを何回も村中にまけれれば最高です。
★いろんな企画を盛りこんであり、楽しく学ばせていただきました。平和を求めることが「よくないこと」のような空気を安倍政権はつくろうとしていますが、今日踊ってくれた子どもたちが、いつまでも幸せで豊かな人生を送れるような社会をつくっていくことを共にがんばりたいと思います。
★初めての参加でしたので、非常に勉強になりました。県外の方が数回この学習会に参加下さっていらっしゃる事も知りました。記録する事がいかに大切かも知り、何気なく手帳に記録している事も、後日、当時を振り返ることになるのだと思いました。雨の中でしたけれど、講演、シンポジウムもとても学びも大でした。学習会、次回は友人も誘い、参加したいと思いました。
★わびあいの里・平和資料館を見ているので、今回の話はよくわかりました。文字だけ見るだけでなく、鳥山さんの話を通して、阿波根さんの日記が生き生きとしてきた感じがしました。1950年代からの島ぐるみ闘争が、今の辺野古・高江の座り込み、オール沖縄につながっていると思いました。それと共に、社会の沈黙、というところも全く今と重なります。
★到着が大幅に遅刻して、シンポジウム後半からの参加になって残念でしたが、短い時間にも阿波根さん、他、記録を残した方々の遺志をしっかり受け継いでいる方々の熱意を感じ、心熱くなりました。
★記録し、記録を残すことが平和運動であるということに感銘を受けました。
★今回は、資料活用ということでお話をされていて、阿波根さんが残された記録の大切さに改めて気づかされました。阿波根さんが残してくださった資料を平和への道標とし、私自身も資料の活用方法を考えていきたいです。有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
★フェリーの時間に遅れ、シンポジウムからの参加となりました。鳥山さんの基調講演、楽しみにしていましたが、残念です。長年の阿波根さんの資料調査、目録作成に敬意を表します。この資料を生かすも生かさないも、私たち一人一人の課題ですね。シンポを聞いて、考えさせられました。
★初めての参加ですので、まだ知らないことが多く、大きな象の肌に少しふれさせてもらった感があります。今回、不屈館も訪問し、辺野古で船上から石をつみあげている工事を見て、沖縄の方々の闘いの継続性に学ぶことの大切さを痛感しています。阿波根さんの写真は小生も写真をすこしやっていますので、表現の的確さと視点のすばらしさに感動しました。写真に愛情があります。阿波根さんの写真が発しているメッセージは、同時代に生きている現在の庶民の生活、人生を大切に思い、評価せよということだと思います。大変重要な仕事である阿波根さんの歴史的資料の整理と検討と同時に、今、生きている平凡な人をとりあげ光をあてることが必

要だと言っておられるように思えました。小生もそのことが全く出来ていないのでがんばってみたいと思います。謝花悦子さんをはじめ、この会を運営されたスタッフの皆さんに心から感謝します。はじめて参加する人が又あると思いますが、出来れば学習会が始まる前に伊江島全体をめぐる闘いの歴史案内をいただければ、理解がより深まるのではないかと思います。
★記録を残し、活かすことの意味というものを強く感じました。守らなければ、なかったことにされてしまうことの恐ろしさ、知らせていかなければ忘れられてしまうのだと学びました。伊江島の人々の姿を記録し続けていた阿波根さんに学び、自分も知らせていく一人になりたいと思いました。こうした闘いの中には、権力側からの分断があることを改めて認識し、その点で難しいことがあることも分かりました。その中で、鳥山さんがおっしゃっていた「あえて運動とそうでない部分に資料を分ける必要はない。“運動だけではない”というときに、では運動とは何か？ということを考える必要がある」という言葉に印象が残りました。生活のすべてを奪われた伊江島の人々にとって、闘うことは生きることに直結していたのではないかと思います。その思いをもっと感じ取りたいと思います。また、講演会だけでなく、小学生の村踊りや、花こまさんのもちつきなど、文化的なものも見ることができ、楽しかったです。基地などの軍事が大切にされるのではなく、文化・生活が大切にされる世の中にしたいと改めて思いました。また、来年も参加したいです。ありがとうございました。
★資料の活用と継承について考えをあらたにしました。「沈黙の社会」～今につながることとして重くうけとめました。
★人の心に落ちたものが種となって育っていきます。神様が平和をつくるために戦う人材をおこして下さることを信じて祈っていきたいと思います。謝花悦子さんの後継者が与えられることが、今、求められていること。心配しつつ、祈りつつ、具体的に無力で申し訳ございません。
★今年は現場からの発言だったので、とても良かったです。又、一番良かったのは伊江島の小学校の子ども達の参加でした。東京から民泊をしに年間何万人か？高校生が訪れると聞いていますが、彼らはわびあいの里を訪問することもないと聞いています。せっかく来て何を見て帰るのか？と思っていました。伊江島の小学校に謝花さんが話をしに行っていることを聞いて、すばらしいと思いました。「平和」を伝えられる貴重な謝花さんがこれからも学校で語り部として呼ばれますように。
★いろいろな場所といろいろな方面の立場からの人の意見が、新鮮で楽しい思いがわいてきます。
★伊江島の住民の方達とふれあう様な会の様子がよかったです。
★皆さん、まじめで誠実で、このような方々にお会いできてほんとうに感謝しております。ありがとうございました。遠くからきたかいがありました。また、来年も大変でしょうが、よろしくお願い致します。
★阿波根さんの記録を保存されていること、様々な方のお話を聞き、刺激を受けました。日常生活にいかしていきたいと思います。
★記録とは良い・悪い、気に入った・入らないにかかわらず、そのまますべてを残す、というのが心に残っています。
★今回もやはり来てよかった！私の目的は一つです。もっともっと阿波根昌鴻のことを知りたい、氏の語った言葉、真実の記録を知りたい、それによって私たちは平和というものをもっと深く掘り下げて考えたい、戦争はやってはいけない。にも関わらず、人間は戦争を止めることができない、なぜか？私たち人間はもっと深く、深く自らの業というか、人間そのものを知るために、阿波根翁の見た人間の弱さ、みにくさをその記録を通して学び、それを平和の実現に向けて行動していく糧にすべきではないか？剣を持つ者は剣によってほろびる。昌鴻翁の博愛の精神とその行動力のDNAを私たちは受け継ぐべきではないか。
★この会に来る前にヌチドゥタカラの家に行って、阿波根さんの資料をたくさん拝見してきました。本当に膨大な数で、全部回るには時間はかかるだろうと思いました。そのような貴重な資料も、これから伝えていく人がいないと意味がないと思い、この「学び合う会」は、阿波根さんが残した資料を伝えていく人を育てる会なのではないかと感じました。

★スタッフ参加をさせていただきました。ありがとうございました。初めての参加で至らないところも多々ありましたが、あたたかい皆さんと成しとげる過程をご一緒させて頂き、感謝です。プライベートでもまた遊びにいきます。またよろしくおねがいします。
★第一次資料から伝わるエネルギーは本当に重要だと思います。その貴重な資料をもって、歴史の教訓を伝え、それをどう活かしていくかが問われていると思います。戦争や過去の闘いへの関心が薄れている一方で、社会は悪い方向に進んでいます。阿波根さんは「事実を伝えていけば社会は動く」という社会への信頼があったと話されていましたが、その軸はとても大事だと思います。私も社会への信頼をもって、道理のあることを絶対にあきらめずに、つらぬき通せるようにしたいと思います。
★県内出身の 20 代です。パネルディスカッションの最後に鳥山先生が言われた「生活と運動を分けない、生活の中の運動という形で、村内の人に見てもらえるように」という言葉に大変共感しました。沖縄の人が、生活とともに運動を続けてきて今の沖縄があるということを、沖縄の若者の多くがよく知っていないので、もどかしいなと思います。私自身、最近、勉強した身ですが、まわりにもっと伝えて関心をもってくれるように働きかけるのをがんばります。
★パネルディスカッションのテーマは、“隠蔽、忘却、正当化”への対抗、また、でっちあげにも対抗しなければならない情勢の中で、事実をつみ重ね闘うことの重要性をとても感じました。また、その情報の受けとり手として、最後に鳥山先生がお話されたように、何のために運動をしているのかという根本に、生活の問題があるのであり、運動への見方も変えていかなければならないと思います。
★講演がとても勉強になりました。
★ヌチドゥタカラの家に、一度来たことがあり、今日も資料館をみてきました。たくさんの資料があり、阿波根さんの記録を残された精神といいますか、敬服しています。しかし、資料を残し、それを管理されている方だいらっしゃること、考えたこともありませんでした。とてもよい機会でした。

4 お気付きの点やその他
★この会を開くのは大変な苦労だと思います。16 回（16 年間）も開くことはもっと驚きです。もはや、一つの文化といってもいいと思います。これからもよろしくお願いします。
★新館ができあがるのを期待します。
★阿波根さんの資料は島の歴史になるんですね。
★鳥山先生のさいごのことば、よくわかります。真謝日記よんでみます。
★伊江村の村踊りの中で、児童が島くとぅばを話す場面がありましたが、何を言っているのか聴衆に想像させる（ゲームのようなもの）があってもよかったと思う。このように地元の小学生を巻き込むことは非常にいいこと。さいごに謝花さんのお話は、想いがこもっていてよかった。
★遠方から毎年は来られない人、初めての人のために、正式プログラム外でオプションとして、第 1 日目の午前中、又は第 2 日目の島めぐり後に、わびあいの里・ヌチドゥタカラの家訪問を入れ、是非阿波根氏の本人案内や、本人が語る DVD 上映を入れてほしい。若い世代同士が交流できる時間・場を 2 日目の夜かにもてると、よりよいと思います。（できれば、そこに長く活動されている方、謝花さんとか長老の方から、じっくり聞きたいことを聞ける時間も入れて）
★記録のデジタル・アーカイブ化を期待しています。どのような紙に、どのような形状か、といったことを目録化すると同時に、画像としてデジタル化して、ネット上で公開してください。立教大学共生社会研究センターの鶴見良行データベースでは、フィールドワークの写真を公開しています。阿波根さんの撮られた写真などもぜひ。
★6 月には 40～50 人でまいります。よろしくお願いします。
★真謝公民館で行われた学習では、話してくださる方に 3 分では短く感じました。せめて 5 分くらいは必要ではないかと思いました。
★島の子ども達の参加もとても良かったです。島との交流がこうしたところからもはじまっていけたらと思います。毎年、発表の場になるのもいいと思います。

★今回、私は息子の高校の時の民泊先に泊まらせていただきました。とってもいいお宅です。夜、伊江島の先祖の方々の話もうかがうことができ、伊江島に親戚ができた気持ちです。民泊先、全てとは言いませんが、この学習会の時にも、ぜひ泊めていただける方がいたら、少しずつでも広げていけたらと思います。本当の伊江島の方々の中に入り込み、交流できるのは平和本来の姿だと思います。外から見るだけでない、伊江島とのふれあいができ、平和を通じてつながれるチャンスになるのではと思いました。是非、できたらと思います。
★都内の平和集会は、90％は白髪老人ばかりのことが多いですが、こちらの集会は若々しい方々も多く見られて感銘を受けました。
★村長のメッセージ・・・びっくりした。でも、いい事だと思う。
真謝公民館での集会は物足りない感じがした。時刻を早めて、1 時くらいから始めて、たっぷり話してもらったら良かった。もっと聞きたかった。せかされて話半分の感があった。
★写真展で写っている人に知っている人が二人いた。なつかしく思った。
★30 年前、悦子さんからきいた「生協運動（生協をやめる決断の背景に、阿波根さんの信念・思想があると思いながらききました。）のことに強い関心をもちます。
30 年前、具志八重さんのご紹介でわびあいの里にてお世話になりました。泊めていただきながら、阿波根さんから真謝の歴史を拝聴する機会をいただきました。私一人しかいないにもかかわらず、何時間もかけて、また誠意あふれるかたりで、大学ノートを確認しながら教えてくださったことを、よく思い出します。また、謝花さんが軽トラを運転して、タッチューにつれていってくださったときのことも懐かしく目に浮かびます。山の形をかえられた艦砲射撃のことが語られる中で、戦争はおこしてはいけないものだと痛感しました。あの頃は悦子さんの姪っ子さんもおられ、三人がそれぞれの個性を大切にしながら平和を紡いでいたことが印象的です、悦子さんが今、こうして資料・記録を残そうと皆さんと取り組んでおられることに敬意を表し、北海道でもかかわることができたらと願っています。10 年近く前、勤務する高校の 2 年生と伊江島に来ました。各々、民泊先で戦争のことを学んで帰ってきました。それぞれの家庭で戦争の跡をみせてくださいました。阿波根さんの歴史は村の方たちに受け継がれていると感じました。
★地元の人との交流の場、毎回大切だと思います。地元の人々に、この会の存在、継続を通して気づきが生まれ、伊江島を愛し、平和を求める心が伊江島の人々の内に育ちますように。そのために、わびあいの里が用いられますようにお祈り致します。御愛労頂きました。皆々お一人お一人に感謝申し上げます。
★いつも内容が盛りだくさんで、スタッフのご苦労を思います。ありがとうございました。
★若い人の姿が他の集会より比較的多いように感じられます。確実に世代交代は引き継がれているのでは・・・と自信をもって良いのではないでしょうか。財団運営は大変なことと思いますが、地震をもってすすんでいって下さい。
★三里塚は空港建設のために農業破壊、農地強奪される事に農地と生活を守る事で、反対運動が開始され、勝つには国家・国策をつぶす様な闘いをしなければ勝てないと闘ってきました。それはまさに伊江島の土地闘争に学ぶ事が多いと改めて思いました。三里塚の闘いの中と末を沖縄闘争の中味を学び深めていきます。
三里塚を戦った人達も多く参加していました。
阿波根さんの事は、百里基地反対同盟（落成式）の梅沢さんや、砂川基地拡張反対同盟の宮岡さんも交流していたと伺いました。
共にがんばりましょう。
★子ども達の踊りがとても新鮮で、伝統が伝わっていることに感激しました。
★保存されている資料は、阿波根さんがどのような本を読んで勉強されたのか、あれば知りたいと思います。
★準備もせず、急に参加しましたが、やはり予備知識がほしかったと心から反省しました。東京でも「亀次郎」さんの映画を上映します。西小の 5 年生の皆さん、切れのよい踊りで気持ちよかったです。お弁当、やさしい味で美味しかったです。漬物もありがとう。
★伊江村の村踊り　子どもたち、伊江村の芸能を初めて拝見！とても新鮮で感動しました！私

は名護市生まれですが、島くとぅばも各々に違って、面白かった！時代はどんなに苦しい時代があっても、このように芸能が子どもたちにもしっかりと受け継がれていることは何とすばらしいことか！花こま「餅つき」はとても楽しかったです。三味線の音楽に合わせて会場のみなさんも一つになって、とても楽しめました！おもちもとても美味しかったです。よい企画でした！ありがとう！感謝します！
★また伊江島に来たいと思います。出来たら来年！ありがとうございました。
★「阿波根さんと生きた地域の人々」という資料がみたいです。私は 20 代、阿波根さんがご存命の時にお会いして、ということは叶いませんでした。その人物と思想を残された書籍・数少ない映像を拾い集めて理解をしてきました。今日、写真展の係をしていて、60 代～70 代の男性から阿波根さんの記憶をききました。『たくさん阿波根さんとは話をしたり、思いでがあるよ。子どもたちへの教育がすごかったね。ある日、阿波根さんのお店に小さな子がやってきた。クリスマスの時期で、たくさんのお菓子やおもちゃがあった。阿波根さんが出てきて、「〇〇、元気だったか？」子ども〇〇「おじい、これがほしいよ」阿波根さん「そうだな、ほしいな。でもひとつ手に入れたら新しいものがほしくなるよ。次はあれ、その次はそれ。みて、さわって、それでよかったな。みた、さわった、それで良い」というやり取りをみた。』このお話の後に、『阿波根さんの「ガラスランプの掃除をしてくれる若い子が、ある日乱暴に掃除をして、ランプを壊してしまった。それを見た阿波根さんはとても怒った。「丁寧にすること、まごころこめて行いなさい」と」それを聞いて、その姿が今の自分の中で生き方に反映されていると、その 60～70 代の方はおっしゃっていました。私はこのお話から、さらに土地闘争以外での阿波根さん、そして、慕い支える村民という地域の人々の濃いつながりを感じました。阿波根さんと生きた人々に今、お話をきくという作業を通じて、地域の方々とのつながりも再構築、深化できるのではないでしょうか。
★とても貴重な会だと思います。今後も継続していっていただきたいです。ありがとうございました。
★ありがとうございました。